

		1. 地域の経済動向調査に関すること		2. 経営状況の分析に関すること		3. 事業計画の策定支援に関すること		4. 事業計画策定後の実施支援に関すること		5. 需要動向調査に関すること		6. 新たな需要開拓に寄与する事業に関すること	
NO	氏名	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
1	高橋幸司	B	各種公表資料による経済動向についての調査が不十分である。	A	専門家と連携した支援事例を全事業所に拡大していくことはできない	A	シニアインストラクターを招いたセミナーが効果があるものとする。	A	コメントなし	A	コメントなし	A	コメントなし
2	小沢 亙	B	初年度としては良くやれていると思います。	A	経営者の意識改革が必要かもしれません。	A	経営者の意識改革が必要かもしれません。	A	経営者の意識改革が必要かもしれません。	A	初年度としては良くやれていると思います。	A	経営者の意識改革が必要かもしれません。
3	本多喜悦	A	独自調査は良く実施して、今後の基礎データになったと評価する。	A	当商工会の小規模事業者の抱える課題を浮き彫りしたと評価する。	A	特に計画策定数や事業承継の実績については評価される。	A	限られた経営指導員で初年としてはよくフォローしたと判断する。	B	一部未実施な内容もあり新年度に期待したい。	B	新年度は成約件数の増加を期待したい。
4	渡部 力	B	調査項目が多岐にわたっており、各種公表資料による経済動向の調査は独自に分析を行うことには限界があるのではないかと。	B	経営実態調査を活用した経営分析の数値は目標を上回っており評価できる。一方で分析結果を活用した具体的な経営支援増加に期待したい	A	事業目的に合わせた計画策定数は目標比1037%と地元の商工会としての機能を十分に果たしている。	B	新規事業に体力を奪われた感あり、フォローの部分は今後の課題。	A	商品券発行、物産展参加等能動的な取組みを評価	A	新たな需要開拓に関する取組はすぐに効果は表れなくても引き続き取り組んでいく必要がある。
5	堀 真一	A	限られた人員の中での各種データ収集には苦労されていると思います。	A	事業者の実態把握することが、経営サポートを行うための前提条件であり、今後もヒアリング項目を検討し、実態把握を進めて頂きたい。	A	事業承継については、多くの事業者が抱えている問題であり、今後の対象先の増加が間違いない状況であることから支援活動の一層の周知を図って頂きたい。	A	事業計画は進捗状況を管理し、必要があれば、見直しを図ることが重要であり、フォロー活動は労力を要しますが、継続して実施して頂きたい。	A	地元の需要動向をもっと深く調べ対応する必要があるのでは。	A	人口減少に伴い、海外との取引に興味を持つ事業者は多いと思われ、ノウハウを持つ企業との連携を更に進めて、出羽商工会ならではの体系的な物を作って頂きたい。
6	斎藤 貴	A	コメントなし	A	コメントなし	A	コメントなし	A	コメントなし	A	コメントなし	A	実績にばらつきがあり目標を見直す必要があるのではないのでしょうか。
7	阿部真一	B	各種動向調査の扱いについては濃淡があってもいいと思います。ただ達成率25%等の明記があることからB評価に致しました。	B	同左	A	創業、第二創業については、前提になる意識醸成等のPRが充分図れないと達成率向上はなかなか難しいように思います。	B	同左	B	消費者アンケート調査対象世帯数「160件」という数字がハードルとして高いのではないのでしょうか。	A	達成率100%未満の数字については、初年度での結果としては難しく、3年後位を目途に達成することでもいいのではないのでしょうか。こうしたことからA評価と致しました。
8	齋藤仁志	A	特になし	A	経営計画策定や経営革新塾の対象者を増やし、経営改善につながるような取組みをしていく必要がある。	A	コメントなし	B	フォローアップが一番重要だと思うので、この評価上がる対応すべき。	B	コメントなし	A	コメントなし
9	松本壽太	B	短時間で良く頑張っている。調査は地味なことであるが、大切な基礎データである。実態把握が正確でないと次にやることにも、大きな影響がある。	B	受講者の認識やベクトルが一体化しているのか。受講者の募集の仕方にも一考が必要。社会情勢の変化、将来予測に対する甘さがある。	A	各企業すべて条件が違うわけでの違いを理解する。スキルを持って対応し心底、腹ワタを発言いただける職員の人格形成も大事。	A	当然だが、さらに深化し、進化して進化の発見までいくことを目標として努力して「ほしい。	B	イベント等(まつり、物産展)の調査はトレンドや人気度をチェックできるだろう。この方法ですべてをカバーできるとは言えないのでは。	B	業種が限られてしまう傾向がある。管内で多くの割合を占める業種に活力を注入できればと思う。
10	大瀧郁夫	B	目標回数に対しての実績が65%であることから概ね良好か。	C	計画策定、経営革新、創業についてより具体的に進めるための分析が必要と思われる。	B	セミナー回数の実績については概ね良好であるが、アンケート等により具体的要望を抽出する必要がある。	C	フォローアップという言葉の惑わされるが何をどうフォローアップしているのか不明、回数ではなく効果を検証する。	A	需要動向についての調査は問題ない。	C	成約件数が0%から5%では… 具体的成約に繋げることが必要。
総合評価		B	A-4名 B-6名	A	A-6名 B-3名 C-1名	A	A-9名 B-1名	A	A-6名 B-3名 C-1名	A	A-6名 B-4名	A	A-7名 B-2名 C-1名